令和４年度　愛媛県立松山北高等学校第 74 回卒業証書授与式　式辞

令和５．３．１

寒さも和らぎ、皆さんが入場前に控えていた北斗園には、紅白の梅の花が咲き、桜のつぼみは少しずつ芽吹き始め､穏やかな春の到来を感じさせる今日の佳き日に、ＰＴＡ会長 田所 雅樹 様はじめ、多くの保護者の皆様方の御臨席を賜り、愛媛県立松山北高等学校第 74 回卒業証書授与式を挙行できますことは､この上ない喜びであり、深く感謝申し上げます。

本日、松山北高等学校は 349 名の卒業生を送り出すこととなりました。只今卒業証書を授与いたしました卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様におかれましては､青春時代の高校生活３年間をコロナ禍に巻き込まれ、迷いながらも確実に前を向き、一歩ずつ懸命に歩んできたお子様の晴れの姿をご覧になり、感慨ひとしおのことと拝察いたします。お子様の成長を第一に願い、無償の愛情を注ぎ、笑顔で励まし、慈しんでこられた保護者の皆様に尊敬の念を抱きますとともに、衷心よりお喜びを申し上げます。また、何よりも、本校を温かく見守っていただきましたことに、ただただ深く感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さんと出会ってから２年間、ともに学校生活を過ごすことができ、様々な学校生活の場面や皆さんの感情豊かな表情が、私の心にも数多く刻まれています。

「卒業式に　友と撮りたる　記念写真　裏に書かれし　想いは今に」

この歌は、毎年１月に行われる宮中の年中行事「歌会始の儀」で今年、秋篠宮次女佳子さまが詠まれました。

高校の卒業式の日に友人２人と写真を撮られ、友人が写真の裏にメッセージを書いたその想いが､３人の中で今も続いているという心情を詠まれたものだそうです。皆さんが過ごしたそれぞれの高校生活のすべてをお伝えすることはできませんが、少しでも思い出に残る場面を紹介したいと思います。

１　暑い夏､「城北高女」の生徒 22 名が殉職した祥月（しょうつき）命日に､「殉職女子学徒追憶之碑」を、90 歳を超えるご学友の方々と清掃したボランティア活動

２　車いすを巧みに乗りこなし世界を制した快挙、地元四国のインターハイ出場を決めた勝負強さと不屈の闘志、国体入賞やアマチュア最高峰リーグへの参戦と学校生活を両立した文武両道

３　全国高等学校総合文化祭で披露した吟詠剣詩舞部や松山市小野谷の小野小町伝承の謎を追いかけて最優秀を獲得した郷土歴史の探求

４　興居島を中心とした忽那諸島の海ごみを継続して回収した環境保全活動

５　平和を祈念する奉納揮毫などの書道パフォーマンス、各種のコンクールにおける吹奏楽部やコーラス部の音楽活動、県展などの審査において高い評価をされ表彰されている美術作品
６　雨が降るコンディションのピッチで追いかけたボール、真夏のビーチや炎天下の球場における熱戦、リング下やコート全体で見せた県立学校トップの存在感とチームワーク、研ぎ澄まされた一瞬や間合いの中での勝負、極度のプレッシャーや張り詰めた緊迫感に押し潰されそうな中での挑戦など、数多くの場面が心に刻まれています。

大会の頂点や自ら目指した目標には届かなかったものの、様々な場面で松山北高校生の誇らしい「文・武・心」を見せてくれました。ありがとうございました。

７　そして、何よりも、卒業生の皆さんが見せてくれた日常の挨拶こそ、賞賛に値すると確信しています。相手の方に対し、自然に立ち止まり相手を見て、挨拶ができる生徒が多いことです。この当たり前の立ち居振る舞いは、在校生にも静かに受け継がれています。私自身が見習うべきものであり、自己反省するとともに、実践している皆さんを心から尊敬しています。
８　さらに、今年の１月、大学入学共通テストの朝、いつもどおりの平常心で正門を出て大学へ向かう表情、テストを終えた翌日の月曜日に、正門を入るときに見せてくれた前向きな表情に、松山北高校で培った「文・武・心」三道三立を目指して磨いた人間性を実感することができました。

今、紹介した場面は、皆さんが過ごした授業、学校行事、部活動などの一部分でしかありませんが、すべての一場面、一場面が、青春時代のアルバムや写真として尊く大切な思い出であり、いつまでも仲間たちと語り合えるタイムマシンになってくれることでしょう。

皆さんが卒業し、次のステージで自らの可能性を信じて、次世代を担い、社会に貢献する人材を目指して、旅立つに当たり、はなむけの言葉を二つ贈ります。
一つは、皆さんが２年生のときの９月に、本校 120 周年記念式に皆さんの先輩で直木賞作家である天童荒太さんが、講演でお話しされた内容を書き起こし、本として出版された内容の一部を紹介します。「どの方向に進むのか、まず迷ってください。迷うことは、とても大切です。迷えば、情報を知りたくなります。情報を得るということが重要なのです。その情報をもとに、合理的に考えて、何をすべきか、何をすべきでないか。どんな道を選ぶのか、自分で決めてください。」と、生き延びるためのヒントを教えていただきました。
皆さん、悩んで迷うことを肯定的に捉えて、様々なことを学び、体験して好きな

道を見つけて進んでください。そして、天童先生にお話しいただいた多くのヒントが、将来、皆さんが迷った時の道標になればと願っています。

二つ目は、昨年の卒業生にも贈りましたが、皆さん一人一人が駆け抜けた高校生活は、本校の歴史に刻まれる確かな軌跡として、後輩に見せてくれました。明治の詩人、与謝野晶子が、歌集『草の夢』で詠んで表現した心を紹介したいと思います。

「劫初（ごうしょ）より　つくりいとなむ殿堂に
　われも黄金（こがね）の　釘一つ打つ」

松山北高校が創立されてから、諸先輩の方々が営々として築いた120年あまりの学校史に、皆さんが同窓の一人として、「つくり営む」伝統に、たった一本の釘のような小さな存在かもしれないが、その一本は、価値のある「黄金（こがね）」の釘として小さくても光を放つのです。皆さん一人一人、本校の卒業生として自信と誇りをもって、これからも「文・武・心」の道を磨きながら、大きく羽ばたいてもらいたいと願っています。

結びに、本日、松山北高等学校を旅立つ349名が積み上げてきた努力と新しい門出に向かう姿に拍手を送るとともに、349 通りの新しい景色を見ることできることを祈念して、式辞とします。

令和５年３月１日

愛媛県立松山北高等学校長　　友澤　義弘